



令和2年7月27日

阿南市長 表原立磨 様

阿南市総合計画審議会
会長 平山 けい

「阿南市総合計画2021▶2028」基本構想(素案)について(答申)

令和2年5月28日付け阿南企画第86号で諮問のあったこのことについて、審議の結果、別紙とおり返申します。

なお、審議の過程において委員から出された意見についても参考とされたい。



「阿南市総合計画2021▶2018」
基本構想(素案)について

答 申

令和2年7月27日

阿南市総合計画審議会

1 計画の評価

阿南市総合計画審議会は、令和2年5月28日に(仮称)第6次阿南市総合計画の策定に関する重要事項の調査審議について、市長から諮問を受け、これまで2回の会議等を開催し、いろいろな立場の委員が専門的な見地や市民の目線から活発な審議を行いました。

審議に当たっては、社会の潮流や阿南市の特性などを踏まえ、現状や課題を十分に検証し、まちづくりの視点や方向性が市民ニーズを反映した計画になっているか、市民に分かりやすい計画になっているか、といった視点を大切にしました。

今般、新たな総合計画の基本構想として取りまとめられた「阿南市総合計画2021▶2028」基本構想(素案)について審議した結果、当審議会は全体として妥当なものと評価した上で、次のとおり意見を述べます。

2 当審議会の意見

(1) 全体の構成について

- 総合計画は、市の「行政経営の指針」であり、同時に、市民の皆様とまちを創り上げるための理念を共有する「まちづくりの指針」でもありますので、市民に分かりやすい言葉を使用し、読みやすい紙面づくりを求めます。

(2) 社会的潮流の変化について

- 基本構想(素案)の作成に当たって、令和元年度から基礎調査等の準備を進めてこられたところですが、社会経済情勢は刻々と変化しており、直近の出来事についても可能な範囲で触れておいた方がよいのではないかと考えます。

(3) 長期ビジョンについて

- 長期ビジョンとして示された「人口減少社会に立ち向かう 豊かでキラリと輝くまち」の姿と、「戦略的に縮むことで見出される将来のまち」の姿が一致しているのか分かりづらいので、補足説明が必要ではないかと考えます。
- 持続可能な社会を目指す方向性は、市民意識に合致するものであり、SDGs(持続可能な開発目標)の取組も重要であると考えますが、SDGsについては、市民に十分浸透していない現状があります。私たち一人ひとりがSDGsをより身近な問題として理解し、行動につなげていくことが求められていることから、今後において策定する基本計画や実施計画の中で、具体的な取組方針等を示す必要があると考えます。

(4) 将来都市像について

- 将来都市像に「多様な産業」という言葉が使われています。阿南市は、自然と調和した産業都市として成長・発展してきた歴史がありますが、産業はすそ野が広く、具体性に欠けます。阿南市の強みや将来性のある産業分野を捉えて表現した方が、戦略的で阿南市らしさがより強調されるのではないかと考えます。
- 持続可能な社会の実現に向けて、いろいろなことにチャレンジしていくことについては共感できますが、同時に「失敗を恐れない」という姿勢も重要ではないかと考えます。

(5) 基本政策

- 将来都市像と基本政策に関連性を持たせるため、政策名に「チャレンジ1」と付けたり、「…にチャレンジします」といった表現にしてはどうかと考えます。
- 政策名のいくつかに人の感性に訴えるような言葉(形容詞など)が使われていますが、人の価値観は多様であるため、あえてそのような表現をしない方がよいのではないかと考えます。
- 地域資源を生かした新たな賑わいと活力を創出するまちづくりについて、「光のまち」「野球のまち」のほか、「SUPタウン」はすでに始まっている取組であり、「チャレンジ都市」を目指すのであれば、「そうした取組に加え、新たな取組を創出していく」とすべきではないかと考えます。